人物相関図

ディーバ商会

ハリエット・リー
ガートルードの護衛。女とは思えない剣の腕。「強いやつと戦いたい」とかいう少年漫画みたいな戦闘動機を持つ。

ガートルード・ガードナー
植物採集の依頼を受けるディーバ商会の上級社員。頭脳明晰で仕事至上主義だが優雅にこなしていく。ノアの雇い主。

ロジナルド
ガートルードの秘書。オカマ。10代は守備範囲外だがノアに好意を寄せている。

護衛

秘書

雇用

好き♥

いつか戦いたい！

イヴ・エトリック
15歳。美しい故郷の森を、ある植物採集家に燃やされてから、植物採集家を忌み嫌い復讐を誓う。現代文明オンチ。弓矢の達人で猿のような身のこなしっぷり。

故郷のカタキ

ラジャード
ノアの助手兼護衛。23歳。兄貴兼お母さん。元海賊。剣の腕は天才的。身体能力は高いが、頭が良いとは言えない。先代、ノアの父・ブラッドの助手も務めていたが、命を守れなかったことを悔いている。

元・主従

主従

ノア・レスコット
ディーバ商会の植物採集家。16歳。植物以外のことに関しては無頓着で無愛想。典型的なもやしっ子。「起源追想」という特殊能力を持つがために15年間レスコット家の温室に閉じ込められていた。

息子

ブラッド・レスコット
ノアの父。植物採集家として常に世界中を飛び回っていた先で、子供だったラジャードを拾い教育を施す。レスコット家の温室にいる息子・ノアに植物を送っていた日々を送る中、何者かに暗殺される。

リンドリー・アスカム
レスコット家と本流を同じくする、採集一族アスカム家の次代頭主。脱力系エセ紳士。ノアを良く思っていない。

主従

インディラ
リンドリーに心酔している、クロスボウを操る少女

ロレンス
リンドリーに雇われている屈強な男

レスコット家 ← 敵対 → アスカム家

©KACHO HASHIMOTO/TOKUMA SHOTEN

目指したのは
「世界名作劇場」と「冒険少年漫画」の融合です。
「19世紀植物採集家」はまさにうってつけの題材でした。
史実とファンタジーを混ぜながら
形になったのが今作です。
求めたエンタメに仕上がったと思います！
ぜひ読んでみてください！

橋本花鳥

PROFILE
橋本花鳥（はしもと・かちょう）
別名義にて『週刊少年サンデー超』(小学館)にてデビュー、連載。週刊連載マンガのアシスタント、読み切り掲載など経て『デザート・ライオット(全3巻)』(幻冬舎コミックス)を刊行。後に、自身のサイトにてWEBマンガ『虫籠のカガステル』(橋本チキン名義)を7年間に渡り連載。同人誌でも人気を博し、2014年フランスにて刊行し重版も。2015年に、フランスにて主催されているマンガ賞「Prix Mangawa」にて少年漫画部門を受賞。現地のの学校や図書館にて推薦図書として扱われている。

今、ここに在る理由

担当編集／格闘司書

形あるものにはすべて経緯と理由がある。そう気付かせてくれたのが『アルボスアニマ』という作品。植物の種が陸を越え、風に乗り、海を撫で、この場所を選んで根を張る。その尊い旅の記憶を知ることが出来る主人公・ノアは、植物たちから世界が広いことを教えてもらい外の世界へと踏み出した。

今から三年ほど前、私がまだ漫画の編集になって間もないころ、同人誌即売会の会場にて一般のブースとは明らかに異なる、本を何冊も高い平積みで並べているサークルを見つけた。同人誌で長編を読んだことがなかった、という軽い気持ちで立ち読みをした。それが橋本花鳥先生の作品に初めて触れた瞬間だった。あの高揚感は、今でも忘れられない。初めて漫画編集として「一緒に漫画を作りませんか？」と声を掛けた漫画家でもあった。

当時、自身のサイト上にて『虫籠のカガステル』の連載をしていた最中だったので「もちろん、この連載が終わったら」と話をさせていただいた。彼女はとても真摯に私の拙い話を聞いてくれた。まっすぐに人の目を見る方だな、というのが第一印象。その印象は作品にも顕著に表れている。とてもまっすぐに、キャラクターたちへ愛情を注ぎ込み物語を紡ぎ出している。それが最大の魅力だと断言できる。

一番難航したのは題材選びだった。橋本先生と何度目かの食事をしながら、ふと店の外でそよいでいた一本の木が視界に入った。ご自身でもハーブなどを育てていることを思い出し、私は「プラントハンター」という職業を知っていますか？」と切り出した。

失くしてしまった大事なジグソーパズルの1ピースが見つかった。お互いにしっくり来た手応えを感じる。それから、橋本先生による植物へのあくなき探求はすさまじく、知識を得る度に、水を欲していた花のように咲き誇り始めた。今ではすっかり植物博士である。

登場人物たちが魅力的な理由として、ノアは植物が、ラジャードはノアの父が、イヴは故郷が好きである。好きということは何よりも強い。好きだから身を呈しても守りたい、大事にしたい。橋本先生は漫画が好きで、植物が好きである。おそらく担当編集である私が想像するよりも大好きだ。だからこそ、この漫画が面白いのだと胸を張れる。

この作品が、一人でも多くの手に届きますように。

二〇一五年六月某日